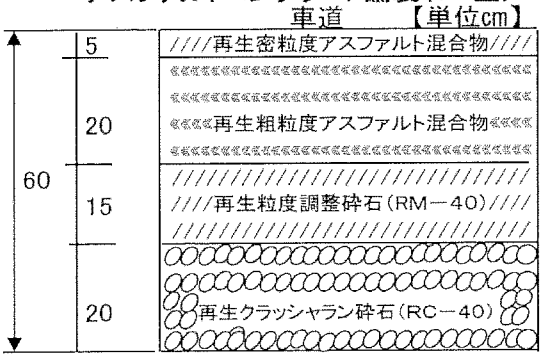
アスファルトコンクリート舗装（車道）

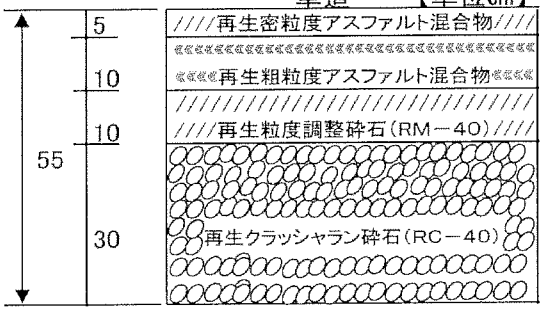
アスファルトコンクリート舗装（60型）

車道　【単位cm】



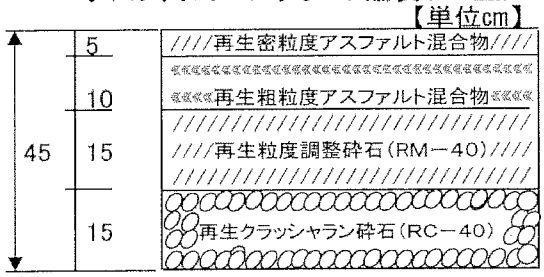
アスファルトコンクリート舗装（55型）

車道　【単位cm】



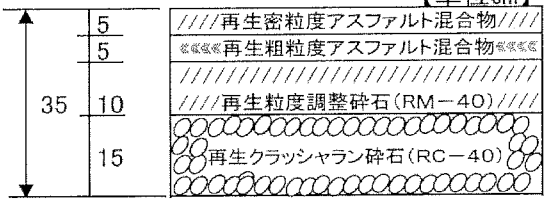
アスファルトコンクリート舗装（45型）

【単位cm】



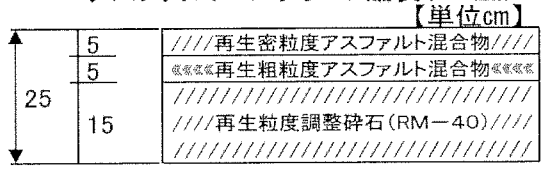
アスファルトコンクリート舗装（35型）

【単位cm】



アスファルトコンクリート舗装（25型）

【単位cm】



名　称	使用材料名（原則として再生材を使用する。）	区車道舗装種別（型）									注意事項
		舗装版のみ打替え（*2）				標準構造					
		5	10	15	25	25	35	45	55	60	
表　層　工	再生密粒度アスファルト混合物（*1）	5	5	5	5	5	5	5	5	5	↓　タックコート工
基　層　工	再生粗粒度アスファルト混合物	－	5	10	20	5	5	10	10	20	↓　プライムコート工
上層路盤工	再生粒度調整砕石（RM-40）	－	－	－	－	15	10	15	10	15	1層仕上げ厚：15cm以下
下層路盤工	再生クラッシャラン（RC-40）	－	－	－	－	－	15	15	30	20	1層仕上げ厚：20cm以下
舗装合計厚（cm）		5	10	15	25	25	35	45	55	60	

■プライムコート工：アスファルト乳剤（PK-3）　1.2L/㎡を標準とする。

■タックコート工：アスファルト乳剤（PK-4）　0.3～0.6L/㎡を標準とする。

・交通開放する場合

切削打替、オーバーレイなどで切削面や既設路面上に舗設する場合：0.6L/㎡を標準とする。

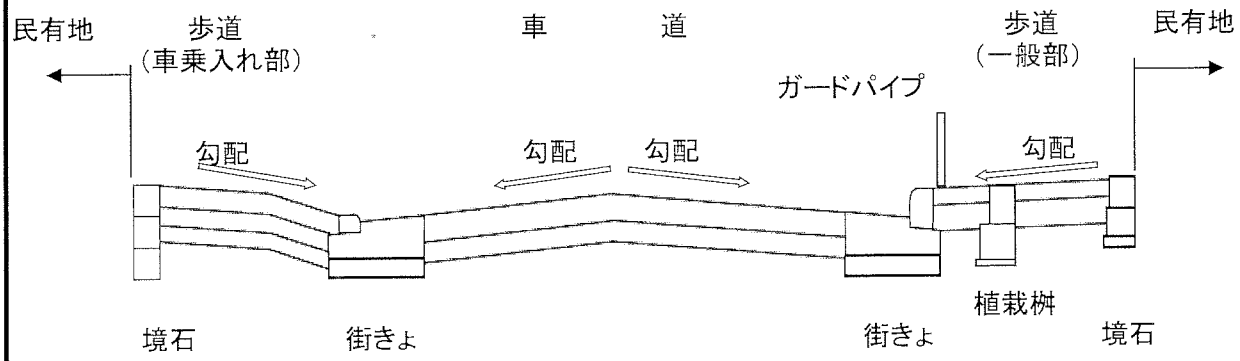
・汚さず数日後に表層を舗設する場合：0.3L/㎡を標準とする。

・アスファルト層を同日に連続舗設する場合：乳剤散布無し

（*1）耐流動性が求められる箇所については、改質アスファルトを使用することができる。

（*2）不陸整正は、補足材の有無にかかわらず路盤の敷き均し転圧を行うこと。

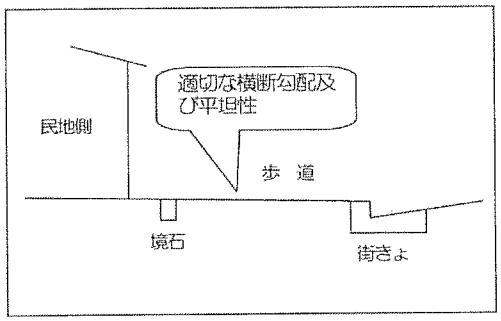
道路標準断面図



舗装復旧を行う際の注意点

良い施工例

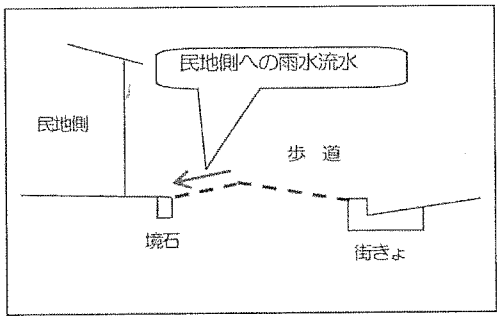
適切な横断勾配及び平坦性



悪い施工例（1）～（2）

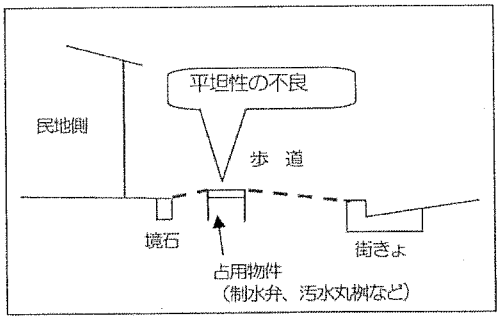
（1）雨水流水の発生原因

横断勾配が逆勾配による民地側への雨水流水



（2）平坦性不良の発生原因

占用物件の高さ調整不足等による平坦性の不良



（その他注意点）

ア　境石及び街きょの舗装すり付けは、L形側溝の舗装すり付けと同様に段差、たわみ、飛散等が発生しないように注意して施工すること。

イ　ガードレール・ガードパイプ等の道路附属物を一時撤去・復旧した場合は、ボルトの緩みがないか及び向きが正しいかを必ず確認すること。